

NEWS

1996.6.1 (平成8年6月1日発行)

発行：財団法人 骨髓移植推進財団

発行責任者：小池欣一(理事長)

編集責任者：森真由美(普及広報委員長)

〒160 東京都新宿区新宿1-4-8新宿小川ビル4F

TEL 03-3355-5041 FAX 03-3355-5090

郵便振替口座：00130-2-609313



わたし め

私は骨髓移植を必要としています。



'96年4月ドナー登録者数は72000人になりました。
しかし、最近ドナー登録者の増加カーブが
横ばいという現状も、紛れもない事実です。
「なぜ一日も早く10万人必要なのか」
その意味をもう一度胸に刻んで隣人に、友人に伝えてほしいのです。
あなたの知っている骨髓移植の話、バンクの存在。
語り合きましょう、生命の大切さ。

骨髓バンクに登録した患者さんのうち約3割は
今も、ひとりの適合ドナーも見出せずにいるのです。



神奈川県在住・A・ちゃん・小学校1年生・女子
再生不良性貧血

いのち どこ?

取材・小玉徹子

小児病棟の 光と影

千葉市の郊外にある千葉県こども病院の血液・腫瘍科に
二人の少年が通院している。

移植を待つ日々

つらい治療にも弱音をはかない。難しい病気と知っているから
たとえ13歳の背中には重すぎる荷物だとしても

血小板輸血を受けている健一君



小倉健一君は13歳、中学2年生。昨年の7月骨髄幹細胞に異型が認められ、ただちに骨髄移植が必要と診断された。両親や姉など血縁者とはHLA（白血球型）が適合しなかった。そこで骨髄バンクに患者登録をした。本人も承知の上だ。しかし、適合ドナーは見つからなかった。

事実を伝える

「病気のことを隠そうと思ったことは一度もありません」

健一君のお母さん・小倉延子

んはい。健一君は1歳半の時に血小板減少症と診断された。そして、小学校1年生の時、再生不良性貧血に移行した際には、健一君に分かるよう話した。

「本人の自覚なしにまわりの方々の理解をお願いできませんから」エプロン姿のまましばしば小学校、中学校へ出向いた。校長先生や担任の先生、クラスメイトにも事情はきちんと伝えた。

病気と向きあつて

「病気に対する前向きな姿勢が治療にも有効なんです」

と健一君が小学1年生の頃からずっと見守り続けてきた担当医師の沖本由理先生。

健一君は3時間かかる血小板輸



小倉健一君のお母さん・小倉延子さん

血にも音をあげない。

「学校休めるから楽だよ」

と笑ってしますが、本当のところは、担当看護婦も舌を巻くほど

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

ということなのだろう。

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

ということなのだろう。

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

「我慢強い」のであり、

「しなければならぬことはきちんとやる。病気との付き合い方を習得しているようですよ」

もっぴのドキュメント

桐朋学園大学演奏学科・2年

吉田光志朗さん



来たる7月30日京都府立芸術会館ホールで骨髄バンク推進チャリティコンサート「響き愛」が開かれる。吉田さんはクラリネット奏者として出演する。

吉田さん自身、適合ドナーを探す患者の一人として、これまでも様々なバンクの支援活動をしてきた。

「活動の母体はそれぞれでもめざすところは一つです」

吉田さんは言う。

大学受験直前に慢性骨髄性白血病を発病以来4年間、今も1日おきにインターフェロンを自己注射しなければならぬ。時に、重い倦怠感に襲われたりすると、気がめいたりする。そんな時にこそクラリネットを吹く。音楽が最良の薬だとか。こよなく愛する音楽が自分だけでなく、誰かの助けになる、吉田さんの思いなのだ。

ドナー登録者数の推移

94年6月まで順調に拡大してきた骨髄提供希望者（ドナー）登録は、5万人を突破した時点から伸び悩みの状態が続いています。特に昨年から毎月ドナー登録数は千人を割りこみ、600~700名と極めて低調となっています。現在の患者さんの適合率は約70%となっていますが、3次検査での精密適合検査やコーディネートの結果により、実際の提供に至る確率は50%に満たない状況です。

世界的に骨髄バンクではHLA抗原（血清学的検査レベル）が合った方を適合ドナーとしてコーディネートを開始しています。しかし、ドナーの健康状況等によっては提供が無理な場合もあり、また、移植成績の向上のためには、DNAレベルまで適合させる必要性が指摘されています。そのためには、ドナー登録者は当面の目標数である10万人よりかなり多く必要になると予測されています。

ドナー登録者数の推移



担当医師の
沖本由理先生

「何より、自分のからだの状態を通して理解しているでしょう」
6年生の頃には3カ月に1度だった血小板輸血を、今では隔週毎に1度受けなければならぬ。期間は徐々に狭まる傾向なのだ。

「よい状態のうちに移植したい」
沖本先生は言う。その方が移植前の過酷な治療（前処置）にも耐えられ、GVHD（移植した骨髄細胞が移植を受けた患者の体を攻撃する免疫反応）をも乗り越えられるのだ。

「待つ」気持ち

「とにかく明るい気持ちを離さずにいること。私にできることはそれだけです」

延子さんはさらりと語ってのけるが、発病から2度の入院、カゼを引いて熱が下がらず血便が出たり、のどの奥に内出血したり。脳内出血の恐れから健一君が1日5グラム以下の塩分制限をしなければ



輸血を受けながら食事している健一君

移植後の経過は順調

何千、何万分の1の出会いにあたる。つらかったことも忘れてしまいうくらいの幸運を大事にしたい

去年の春、中学2年生の時Y君は骨髄移植を受けた。1年たった今、大好きな野球が早くできるようになりたい、と思っている。

「まだできないけどね」

経過は順調とはいえ、まだ紫外線にあたりとGVHDが出やすいのだ。1カ月に1度、検査のために通院している。

幸運に恵まれて

急性骨髄性白血病と診断されたのはY君が小学校4年生の時だ。Y君のお母さんは心配のあまり5キロほどやせた。半年間の化学療法で回復したかに見えたが、1年半後に再発。移植が必要になった。患者登録後幸運にも比較的早く適合ドナーが複数みつかった。

移植の日程が決まった時は、本当にほっとした。再発と聞いてからの心配や不安が一度に消えてなくなった。

「できることなら提供して下さる



病院内の廊下でお母さんと一緒にいるY君

ばならなかった時、同じようにほとんど味の無い食事をしたりという厳しい状況を通り抜けてきた母としての実感なのだ。

健一君に尋ねた。

「待つってどんな気持ち？」

それには答えず少し間を置いて「中学卒業するまでもてはいいい」

健一君はぼつんといった。返す言葉も失った。

方のところへ飛んで行きたいくらいでした」
お母さんはこみ上げる想いで言葉が詰まらせる。

元気がなにより

「そろそろ受験も考えてほしいんだけど、あの頃のことと思えば、ゼいたくかしらね」

そう言ったお母さんの目の前でY君はロビーのソファをひらりと飛び越え、元気なところを見せた。脳裏を去らない辛かった様々なことを全身でふり切るように。

Doctor's Message

横浜市立大学附属病院医師

松崎道男先生



ドナーが見つからず、入院を繰り返している患者さんは病気の種類や進行の具合にもよりますが、ほとんどが確実に悪くなり、残念ながら亡くなってしまう。

子どもの急性白血病では化学療法・薬がよく効きますが、一部の白血病や再発の場合は、骨髄移植が今のところ、唯一の治療法です。大人の白血病は化学療法だけではなかなか難しい。やはり必要な時、すみやかに移植に踏み切れるようになるということです。

ドナーの見つからない患者さんは希望を失い投げやりになったり、治療を受けたくないと言ったり…

そんな時は「ドナーは刻々と増えている」と言って励ますんです。みんな元気になってもらいたい。そのためにももっと、ドナー登録が増えてほしいです。

支援の輪

ACTION

支援活動があります。

、移植ってナニ？
からバンク普及の活動は
ているのです。

ビデオ『いのちのボランティア—骨髄移植』を観て

中央福祉医療専門学校

栃木県



ある骨髄移植を追った若者向けビデオ『いのちのボランティア—骨髄移植』（桜映画社制作・中外製薬提供）。介護福祉士や社会福祉主事を目指して約600人が学ぶ中央福祉医療専門学校では、教材として授業に取り入れてい

もちろんですが、さらに自分のいのちが多くの他人によって生かされていること、またその逆でもあることを感じ取ってほしい」と
と専任講師の栗本孝雄先生は話しています。
ビデオを見た学生たちからは「世界のどこかに自分と同じ骨髄液を持った人がいるなんて不思議」など素直な感想のほか、「バンクへ登録すべきと思うが、いざ自分がするとなると…」といった正直な思いも聞かれました。
骨髄バンク支援活動も行なっている栗本先生は学生の反応について「登録するしないも含め、自分にできることは何なのかを真剣に考えるきっかけになったと思います。病気に正面から向かい合う患者さんの姿を通して、骨髄移植が他人ごとでなく自分に関係ある問題だと認識できたのでは」と評価。今後もこの作品を積極的に授業に取り入れたらと思っています。

地区普及広報委員から

関東地区普及広報委員

小沼 博子 (千葉県)



今年2月の「骨髄バンクを知る」ゼミの際、骨髄提供について、「休業補償されな

らともかく、全く見ず知らずの他人に提供するのは…」等の意見が多く、自己犠牲を伴う活動に抵抗を感じる人が多いことに驚きました。理屈で「必要なこと」というだけでは、共感を得られないことを実感しました。地区普及広報委員として、どう対応していくのか？
自分にできることは何なのかを問い直しながら活動したいと思っています。

九州地区普及広報委員

三ヶ尻登志彦 (佐賀県)



私の住む町、西有田は人口9700人、国道はありませんがチラシを配るようなにぎやかな人通りや商店街などありません。地域のカルチャー教

室に出向いたり、昔からある回覧板の連絡網を利用しリーフレットを配布したり、ケーブルテレビネットでPRしたりと広報活動の中で感じたのは、世代や男女によって骨髄バンクへの関心度が異なり、女性の方が関心が高く、また20代前後の若者が一番熱心だということでした。
小さな町でも、地方でもやれることはたくさんあると実感しています。

あやちゃんの贈り物展



病と闘った少女画家

3歳になる直前急性リンパ性白血病を発症し、治癒の望みだった骨髄移植をはたせぬまま7歳9カ月で生涯を閉じた三瓶彩子ちゃん。彼女は、

6歳から約2年間に8000点に及ぶスケッチを残しました。それらの作品が、骨髄バンク充実を願う両親の想いをこめて「あやちゃんの贈り物展」として全国を巡回中

「しょうらいはいつばながかになるのがゆめ」と語った彩子ちゃんの絵はいずれもものびやかな空想力と恵まれた才能を感じさせるもの。しばしば

海外骨髄バンク事情

アメリカ (NMDP)



全米骨髄バンクは、世界で最も多くのドナー登録数を有しています。1993年10月に100万人、そして、今年2月に200万人に達しています。移植例数も世界一です。世界各国とも提携しています。

イギリス (ANRC)



アンソニー・ノーラン・リサーチセンターは、世界ではじめて作られた骨髄バンク。母が息子を救うためイギリス中を行脚して骨髄バンクの設立を訴え、息子アンソニーの名を冠して作られた骨髄バンクです。今もほとんどが民間の支援により運営されています。

台湾 (TCTMDR)



広がる

TAKE

さまざまな分野の支

骨髄バンクって
誰かがそう思った時か
もう始まって

ご支援いただいています



ライオンズクラブ
ロータリークラブ

財団では、骨髄バンクを正しく理解いただくための普及啓発、財政面を含めた社会的支援などを各界各層にお願いしています。これに心えて、最近、ライオンズクラブ、ロータリークラブ等が積極的に支援活動に取り組んでいただけるようになりました。今後、このような活動が全国に広がることを願っています。

＊国際ロータリークラブ
第2650地区（京都、奈良、滋賀、福井の88クラブ、会員6,800名）では、地区の社会奉仕委員会で骨髄バンク支援をテーマとして取上げていただきました。今年度は骨髄バンクの正しい理解のために各クラブの例会で、説明の機会を与えて下さっています。また、本年4月の地区総会では、今後の支援決定とともに多額の寄付をいただきました。

＊ライオンズクラブ国際協会
330-A地区（東京都内の183クラブ、会員8,300名）では、全国に先駆けて地区として「骨髄移植推進・献血委員会」を設置し、昨年10月に都下全域で街頭キャンペーン、12月にはチャリティイベント、12月にはチャリティイベントを開催するなど、募金活動や普及啓発に取り組む、多額の寄付をいただきました。また、各クラブ単位でも積極的にチャリティイベントや募金活動が行われております。

「明日への扉」連続公演、大きな反響
骨髄移植推進キャンペーンミュージカル



大阪スクールオブミュージック専門学校
東京コミュニケーションアート専門学校
アート専門学校

教職員をはじめ学校ぐるみの全面的バックアップにより始まった骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」は、93年8月の大阪初演から大きな感動を呼び、東京へそして名古屋、福岡へと広がっています。両校では一昨年から、新入生の授業の一貫としてこのミュージカル公演をカリキュラムとして組入れていきます。学校では、「経済的に豊かな現代において、若者たちが人の命や助け合うことの大切さを自ら考えつつ、一つのミュージカルに仕上げるのは大変良い教育の機会、今後も続けたい」と話されています。毎年卒業式では、公演での募金をご寄付いただいております。

の扉」は、93年8月の大阪初演から大きな感動を呼び、東京へそして名古屋、福岡へと広がっています。両校では一昨年から、新入生の授業の一貫としてこのミュージカル公演をカリキュラムとして組入れていきます。学校では、「経済的に豊かな現代において、若者たちが人の命や助け合うことの大切さを自ら考えつつ、一つのミュージカルに仕上げるのは大変良い教育の機会、今後も続けたい」と話されています。毎年卒業式では、公演での募金をご寄付いただいております。

全国音楽行脚
サント・フローリアン・ピアノ三重奏団

いのちと心のハーモニー
毎年桜の頃、北鎌倉円覚寺で開かれる骨髄バンク支援チャリティコンサート「円覚寺 三重奏の夕べ」は今年4月6日で4回を数えました。サント・フローリアンは三戸素子（ヴァイオリン）小沢洋介（チェロ）、フィリップ・ヤング（ピアノ）さんらが67オーストリア・ザルツブルグで結成、国際舞台で活躍しているピアノトリオ。



白血病の友人を助けようと動きはじめたバンク支援コンサートは福島、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡、山梨などこれまでに30回に及びます。5月以降、新潟で8回連続公演もひかえ、全国へ音楽の旅は続きます。



口にした「普通の子になれない」との思いが無意識に託されてもいるようです。近くで開催の際にはお立ち寄りになつてはいかがでしょうか。

海外骨髄バンク事情

	1996年5月調査				
	アメリカ	イギリス	台湾	香港	日本
ドナー登録数(人)	2,158,474	270,000	117,552	18,000	72,000
骨髄移植数(例)	4,409	約1,500	31	45	739
昨年移植数(例)	約950	266	25	約15	341
設立の年月	1987.9	1974	1993.10	1991	1991.12
人口(万人)	25,823	5,819	2,112	606	12,406

香港
(HKMMF)
香港骨髄バンク (香港骨髄損贈基金 HKMMF) は、1991年に設立され、翌1992年に最初の非血縁者間移植が行われ、海外の中国人患者へも骨髄が送られています。



台湾骨髄バンクは、台湾仏教会が設立母体となつて、開始からわずか2年あまりで、10万人のドナー登録を達成。教員が街頭宣伝、募金で全面的にバックアップしています。すでに、香港、米国とも協力関係にあります。

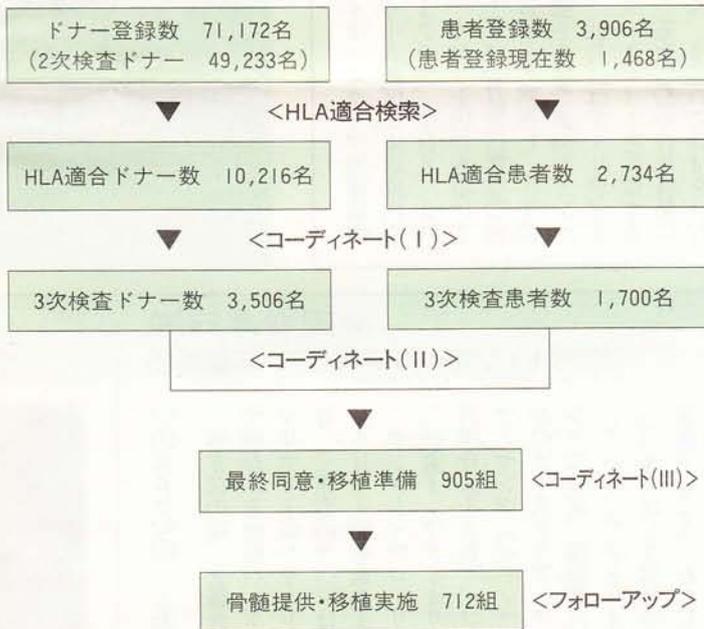


■日本骨髄バンクの現状

日本骨髄バンクが事業を開始してから4年が経過しました。多くの関係者の努力と国民の皆様のご支援により事業が発展してきています。最近、ドナー登録数の拡大は伸び悩んでいますが、骨髄移植数は順調に増加しており、本年3月までに累計712例に達しました。提供されたドナーの皆様には、患者さんに生きる希望、チャンスをお与え下さり心からの感謝を申し上げます。

骨髄移植件数は、平成7年度は358例で、過去2年間余の累計数354例を1年間で超える実績となりました。なお、患者さんの生存状況は移植からの経過期間が短いため、まだ正確な予測ができません。移植直後の患者さんを含む生存状況では、約6割の患者さんが社会復帰されたり、復帰に向けて頑張られています。

1996年3月末現在



注①ドナー登録数は、年齢超過や登録辞退者等を除いた登録者現在数 注②患者登録数は、登録開始からの累計数。患者登録現在数は、移植完了者、登録取消者を除いた登録者現在数 注③HLA適合者数は、HLA-A・B・DR座が一致した累計数 注④3次検査数は、コーディネート(I)が終了し採血検査した累計数 注⑤最終同意数は、ドナーとその家族からの提供同意書が確認され、採取・移植日程の調整に入った、ドナー・患者の組合せ累計数 注⑥骨髄提供・移植実施数以外の各段階の数字は、コーディネートが中止となった例数を含みます。

■都道府県別、ドナー登録、移植状況表

平成8年3月末現在

都道府県	人口	ドナー登録数	提供者数	患者登録数	移植患者数
北海道	5,666(千人)	4,945(A)	61(A)	161(A)	34(A)
青森県	1,469	554	0	18	2
秋田県	1,213	580	3	16	8
岩手県	1,414	524	4	25	2
宮城県	2,295	1,360	12	48	5
山形県	1,251	497	2	35	7
福島県	2,122	1,007	5	56	11
茨城県	2,922	915	13	87	20
栃木県	1,962	900	9	61	6
群馬県	1,981	859	4	71	18
埼玉県	6,659	1,553	33	193	30
千葉県	5,724	1,847	33	188	35
東京都	11,561	12,080	99	326	55
神奈川県	8,122	3,726	57	261	51
新潟県	2,477	1,458	21	67	8
山梨県	866	324	5	34	11
長野県	2,168	1,070	15	68	14
富山県	1,119	700	9	43	16
石川県	1,169	703	7	43	8
福井県	822	423	3	26	5
岐阜県	2,078	1,024	9	58	14
静岡県	3,699	2,031	6	109	23
愛知県	6,750	4,249	35	256	64
三重県	1,816	1,022	7	72	12
滋賀県	1,260	868	7	37	7
京都府	2,560	2,735	20	97	20
大阪府	8,538	5,775	43	308	53
兵庫県	5,435	2,309	22	224	34
奈良県	1,415	844	6	60	11
和歌山県	1,078	459	1	39	6
鳥取県	613	302	6	18	4
島根県	769	489	6	30	2
岡山県	1,930	1,220	11	71	12
広島県	2,856	2,013	35	74	15
山口県	1,546	721	5	68	12
徳島県	828	348	1	24	5
香川県	1,024	461	6	30	3
愛媛県	1,506	585	8	50	6
高知県	813	375	4	18	4
福岡県	4,868	2,995	33	144	17
佐賀県	878	442	1	37	6
長崎県	1,544	679	7	35	11
熊本県	1,847	747	10	54	9
大分県	1,229	593	10	28	2
宮崎県	1,171	438	8	34	6
鹿児島県	1,784	931	6	47	3
沖縄県	1,254	492	4	15	3
海外	-	-	-	42	2
合計	124,069	71,172	712	3,906	712

注①人口は平成6年10月1日現在の推計人口(平成7年3月総務庁統計局刊)
注②ドナー登録数はデータセンター登録者現在数(センター所在地)
注③提供者数・患者登録数・移植患者数は居住地

■コーディネート中止理由について

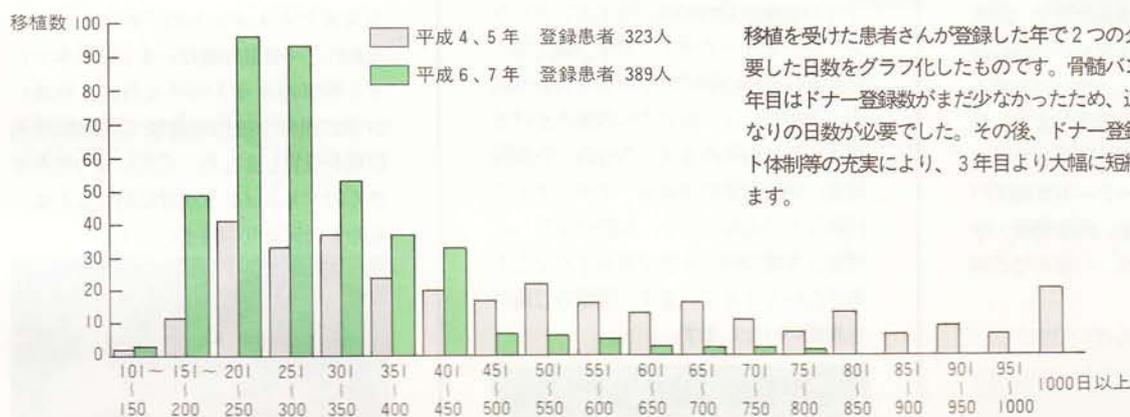
95年1月から12月までの1年間に、患者主治医より依頼されドナーコーディネートを開始した件数は2,621件(人)で、その内、6月~12月(7ヵ月間)にコーディネート中止となった件数は、ドナー候補者数で1,220人でした。今回、その中止段階と理由について調査しました。

- 1) 中止段階は、3次検査以前の中止が一番多く610件(50%)、3次検査から最終同意までの段階での中止が562件(46%)、最終同意から移植までの段階での中止は48件(4%)でした。
- 2) 中止理由では、患者(主治医)側の理由による中止が49.5%、ドナー側の理由による中止が50.5%でほぼ半々でした。
- 3) 患者側理由として多いのは、病状変化による中止です。重症血液疾患の患者さんは、病状安定が難しくかなり早い段階でも移植中止となった

り、残念ながら移植直前でも病状変化で中止となるケースが少なくないことも分かります。なお、3次検査段階では、複数のドナー候補者が同時にコーディネートしており、より適合している他のドナーが選ばれるため、中止となるケースが多いこともご理解いただきたいと思います。

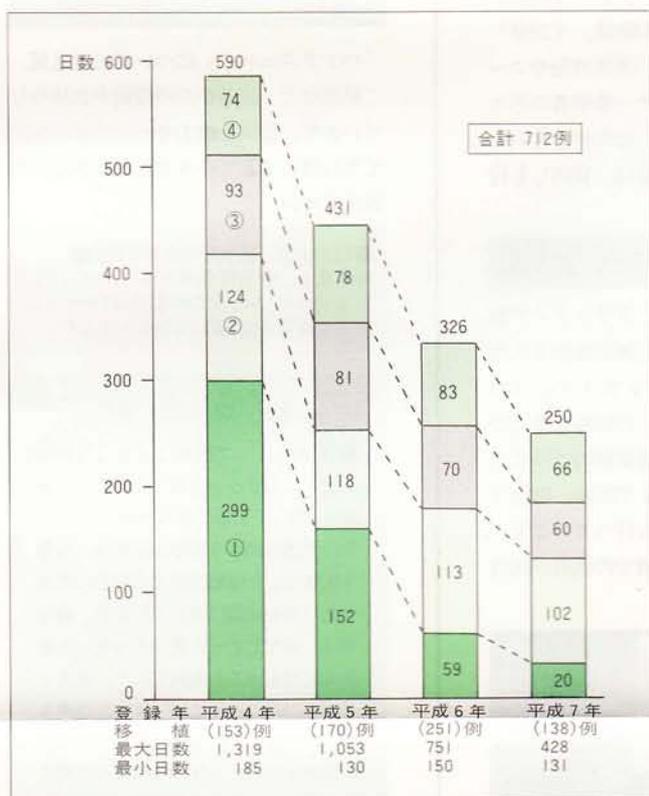
- 4) ドナー候補者側の中止理由で多いのは、健康上の問題です。骨髄バンクはドナーの健康を守るのが使命ですので、コーディネート開始段階から最終段階まで繰返し健康チェックしています。患者さんのために、そしてご自身の健康管理のためにも、ドナー不適合条件に該当する場合はお早めにお申し出ください。また、ご家族のご同意なくしては、実際には提供できない実態も多いことが分かります。ぜひとも、ドナー登録の早い段階からご家族内で、骨髄提供についてのお話し合いをお願いします。

■患者登録から骨髄移植までに要する日数（骨髄移植712例）



移植を受けた患者さんが登録した年で2つのグループに分け、移植までに要した日数をグラフ化したものです。骨髄バンク事業の開始当初の1～2年目はドナー登録数がまだ少なかったため、適合ドナーを見出すまでにかなりの日数が必要でした。その後、ドナー登録数の増加と、コーディネーター体制等の充実により、3年目より大幅に短縮してきていることが分かります。

■適合検索・コーディネート・移植までに要した日数（骨髄移植712例）



移植を受けた患者さんが登録した年別に、移植までに要した日数を各段階に分け、その平均日数をグラフ化したものです。

①登録から適合検索まで

ドナー登録数と2次検査ドナーの増加により、適合確率が高まり適合までの日数は、年毎に劇的に短縮されてきています。

②適合から3次検査まで

平成6年より全国8ブロックに地区調整委員会事務局を設置し、コーディネーターの養成配置や3次検査方法の変更等を行い、コーディネーター体制の充実にも努めてきたため、着実に短縮してきています。しかし、適合確率の高まりとともに、複数のドナー候補者を有する患者さんが大部分となり、より条件のよいドナーを選ぶため時間が必要になってきています。

③3次検査から最終同意まで

着実に短縮してきています。なお、患者主治医は最も適合し状況の良いドナーを選択しています。コーディネーターしている他のドナーの検査結果検討のため、コーディネーター人数により日数に幅がでてきます。

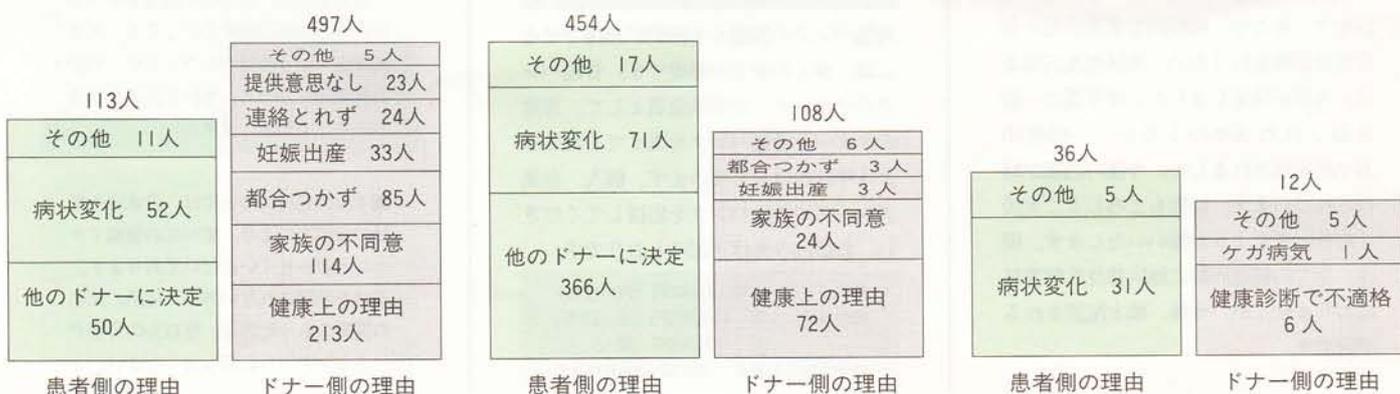
④最終同意から移植まで

移植病院の無菌室空き状況や採取予定病院の調整等が必要となります。なお、安全な骨髄採取のためドナーの精密健康診断や休暇のやり繰りのため、最低でも1ヶ月半程度が必要になることをご理解いただきたいと思います。

※なお、各段階で患者さんの病状により一時中断・保留のケースを含みます。中央値では1～2ヶ月短縮されています。

■ドナーコーディネートの中止例 1995年6月～12月(1220件) ※なおグラフ面積は実数と対応していません

- 1) コーディネート開始から3次検査以前(610人) 2) 3次検査から最終同意まで(562人) 3) 最終同意以降(48人)



研修会開催

ドナーの人権と健康を守る立場で、適正で迅速なコーディネートを行い骨髄移植までの橋渡し役をする、ドナーコーディネーターの養成研修会を開催します。意欲ある一般の方々の応募を期待しています。但し、コーディネーター不足地区の限定募集となっています。開催要綱・申請用紙を財団事務局まで、ハガキでご請求ください。
申請期限は7月12日(必着)です。

＜応募条件＞

- ①骨髄バンク事業を十分理解している方
- ②20歳～69歳までの健康な方
- ③骨髄移植を必要としている患者・家族でない方
- ④特定の患者を支援するグループに属していない方

公共広告機構キャンペーン



平成5年秋より公共広告機構(AC)のキャンペーンテーマのひとつとして骨髄バンクが取り上げられ、国民への普及啓発では大きな影響力を発揮し骨髄バンクの発展に多大な貢献をされています。本年度も引き続きキャンペーンが新聞、テレビ等で6月から開始されます。国民の関心を高めドナー登録拡大にとって、何よりのご支援です。

地区普及広報委員活動開始

骨髄バンク事業を発展させるためには、地域にあった普及啓発活動が求められています。そこで、積極的な普及啓発と募金要請活動を行うため「地区普及広報委員」制度が発足しました。昨年夏に一般公募された方々のうちから、69名の方々が委嘱されました。今後の活躍が期待されています。皆様もよろしくご支援くださいますようお願いいたします。現在、全ての都道府県に地区普及広報委員はおりませんが、今後、順次配置される予定です。

今年度普及広報の重点

今年の普及啓発活動は、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年会議所等一社会奉仕団体の皆様のご理解を得る活動と、全国の大学・短大等への働きかけを重点として取り組みます。各行政・医療関係者、地区普及広報委員、ボランティア団体等との連携により、骨髄バンクへの理解と支援の輪が大きくなるよう全力をあげたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

「一骨髄提供体験談」ビデオ完成

骨髄バンク事業に関わっている普及広報委員、コーディネーター、医療・行政関係者等の参考ビデオとして「10名のドナーたち～骨髄提供体験談」(28分)が完成しました。今後、普及啓発やコーディネートの場面でドナー希望者の方々やご家族の皆様にご覧いただけるものと思います。ご希望の方には、貸出しも行っています。

ビデオ「いのちのボランティア」に反響

昨年末に完成し、全国のボランティア教育指定(協力)高校等に無償提供されたビデオ「いのちのボランティア」(34分)は、大変好評で多くの反響を呼んでいます。さらに、中外製薬様のご厚意で各都道府県、ボランティア団体、財団等にも寄贈され、貸出しも行っています。多くの学校、職場、地域での活用が期待されています。



サポーター募集

骨髄バンクの機能を本格的に発揮させるには、多くの資金が必要です。骨髄バンクのサポーターや賛助会員として、善意のドナーと骨髄バンクを支えてくださるよう呼びかけをしています。個人、企業グループで骨髄バンクを応援してください。お振込み先は下記のとおりです。

サポーター 1口 1,000円(何口でも)
賛助会員 年 100,000円(法人団体)
年 10,000円(個人)
郵便振替口座番号 00130-2-609313

内閣総理大臣賞受賞

NNNドキュメント95「あした天気になあれ!～骨髄移植はいま」(日本テレビ全国30局ネット95年9月17日放映)が第37回科学技術映像祭で内閣総理大臣賞を受賞しました。元気になった患者さんのドキュメントが世に出たことは、私たちの何よりの励みです。



お便りお待ちしております

「バンクニュース」についてのご意見、ご感想など、読者からの投稿をお待ちしています。皆様と紙上キャッチボールができればと考えています。たくさん、お寄せください。

■日本小型自動車振興会から補助
今年度も、普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットの印刷物は「オートレース公益資金」の補助が決定しました。

編集後記

■「告知なくして医療は始まらない。子どもにも分かる言葉で本当のことを話します」千葉県こども病院の沖本医師の医療に向かう真摯な姿勢は、患者を主体にした信頼関係で成り立つ医療のあり方を如実に表しています。■今号は、未だドナーの見つからない患者さんに光を当てる取材でした。運良くドナーが見つかり命を得て社会復帰をされた患者さん、その一方でやるせない気持ちでドナーを待ち続ける患者さん、明暗分かれる患者群像でした。ただ救われたのは、どの子の表情も希望を失わない明るさに満ちていることでした。ドナー登録低迷をどうやって打開するか、この子たちの笑みを消したくありません。■移植の成功率アップは医学の進歩に期するとしても、人と人が支え合う骨髄バンク・ドナーの愛と勇気はもちろん、それを支えた家族や社会にも感謝します。

■本紙の発行については、日本赤十字社のご協力により、すべての登録ドナーに送付させていただいております。送付を希望されない方や、住所、氏名の変更のあった方は、登録先の骨髓バンクセンターへお知らせください。